渦巻く賑わい
- ボールパーク型サッカースタジアムの設

cy15026　豊嶋達也
主査　前田英寿
副査　横山太郎

研究背景と目的

外国のサッカー専用スタジアムやアリーナは、The O_2（イギリス、ロンドン）やザンクト・ヤコブ・パルク（スイス、バーゼル）のように高齢者居住施設や各種商業施設を併設することによって、試合のない日においても賑わいがあり、収益が上がるデザインとなっている。アメリカのボールパークも、野球球場に複合施設やショッピングモールを併設し、試合のない日も訪れる人がいる。一方、日本の既存サッカー専用スタジアムは、稼働率が低く、試合を見る以外の目的で訪れる人が少ない。本設計では、ボールパークを参考に試合がない時で

対象敷地

周辺に高い建物がないため、天気が良い時は、美しい山並みがきれいに見える。

S港に徒歩５分のアクセス
平たんな土地

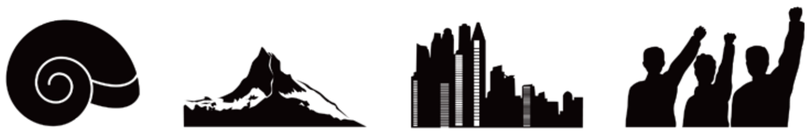
現在は使われていない石油タンクが並んでいる。

魚介料理屋が入る施設がある。

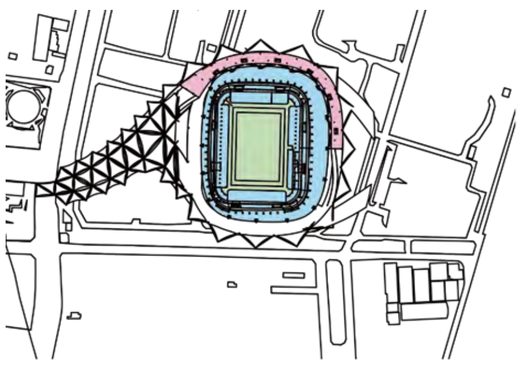
奥にある半島には、日本有数の水揚げ量を誇るマグロの冷凍工場がある。

設計コンセプト

周辺には高い建物が少なく駅だけでなく船からも見えるため、街に馴染みつつ、その土地の顔となるシンボリックなデザインにした。スタジアムを目的として訪れた人、魚介料理屋を目的として訪れた人、公園を目的として訪れた人、それぞれが関係し合い、今までは別々にあったものが一つになることによって相乗効果を生み出す。



巻貝

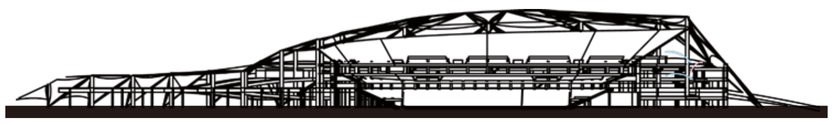


…ボールパーク

…チケット保有者

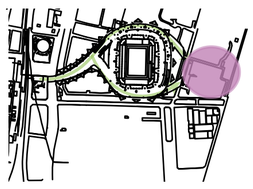
スタジアムを取り巻くようにボールパークを配置した。スタジアムに対してボールパーク側の方向には富士山があり、スタジアムのスタンドからボールパーク越しに見ることができる。

スタジアムのコンコースとボールパークはスロープでつながっており、試合のハーフタイムにも行くことができるようになっている。

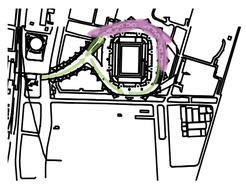


立体的な賑わい

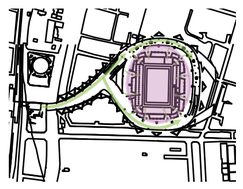
公園利用者



商業施設利用者

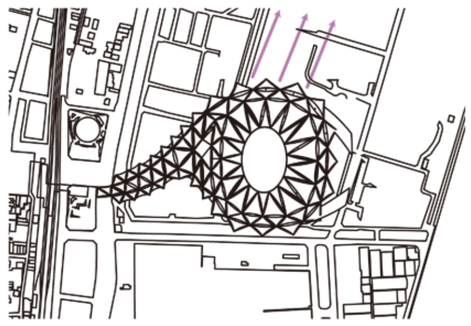


スタジアム利用者



公園利用者、商業施設利用者、スタジアム利用者が同じ動線で交わることでそれぞれに興味を持ち賑わいが増す。

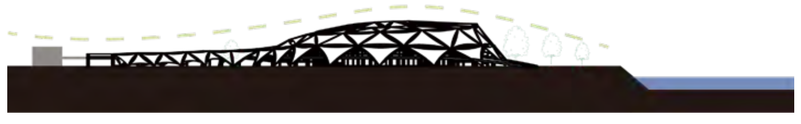
自然を活かす



現状のスタジアムの長所である山並みが見れるデザインを踏襲し、視線が抜けるデザインとなっている。

駅からスタジアムのほうに向かって下の膜を徐々に小さくしていく。ボールパークのところで完全に無くなり、山並みのある方向へ視線を誘導する。上の膜が山並みのシルエットをきれいに強調する。

街に馴染む



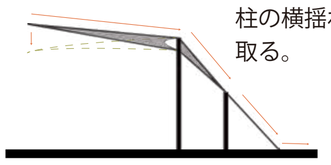
対象敷地周辺には高い建物が少ないため、高さを抑えたデザインにした。海岸に向かって滑らかなスカイラインになっている。

支える

自重、風吹き下し時

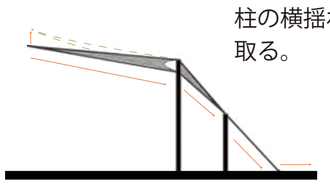
上側のブレースが屋根が垂れてくるのを引っ張ることで抑える

柱の横揺れとの釣り合いを取る。

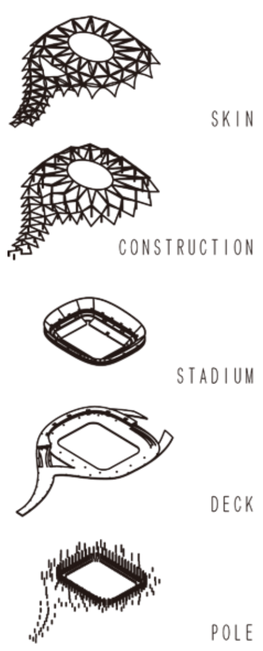


風吹き上げ時

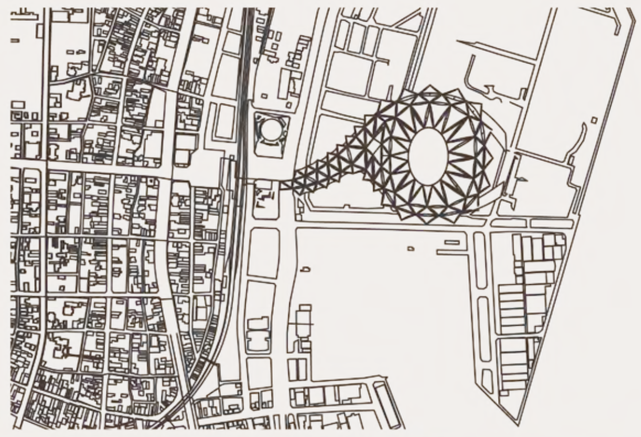
下側のブレースが吹き上げを引っ張ることで抑える。柱の横揺れとの釣り合いを取る。



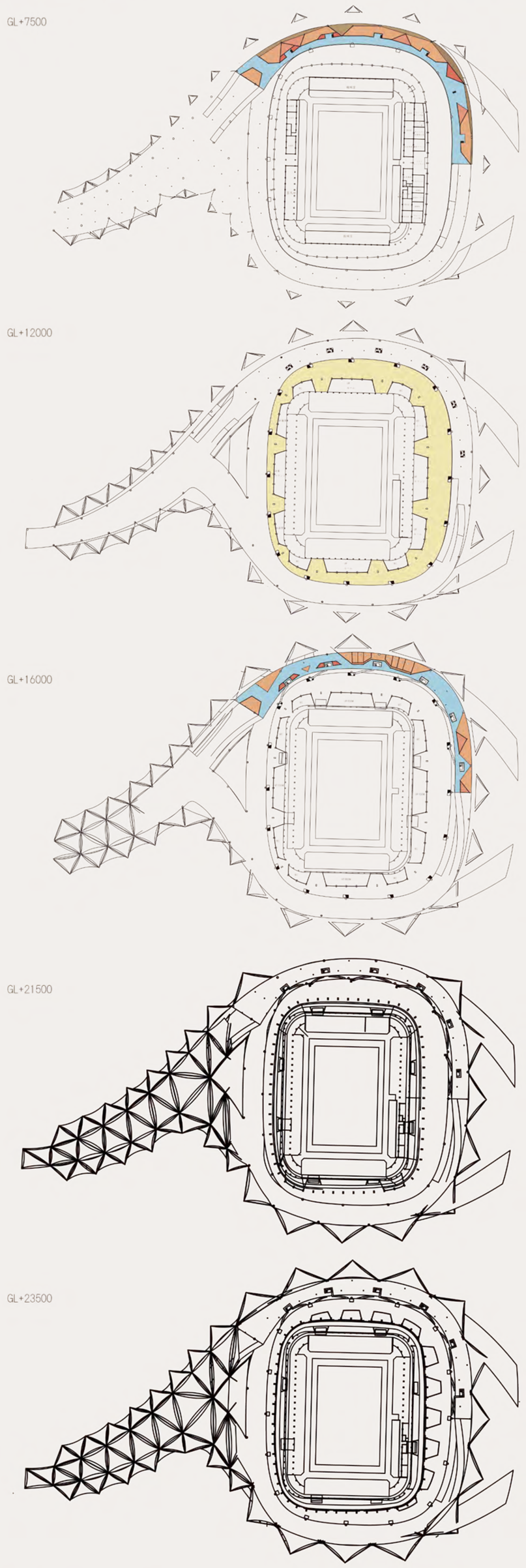
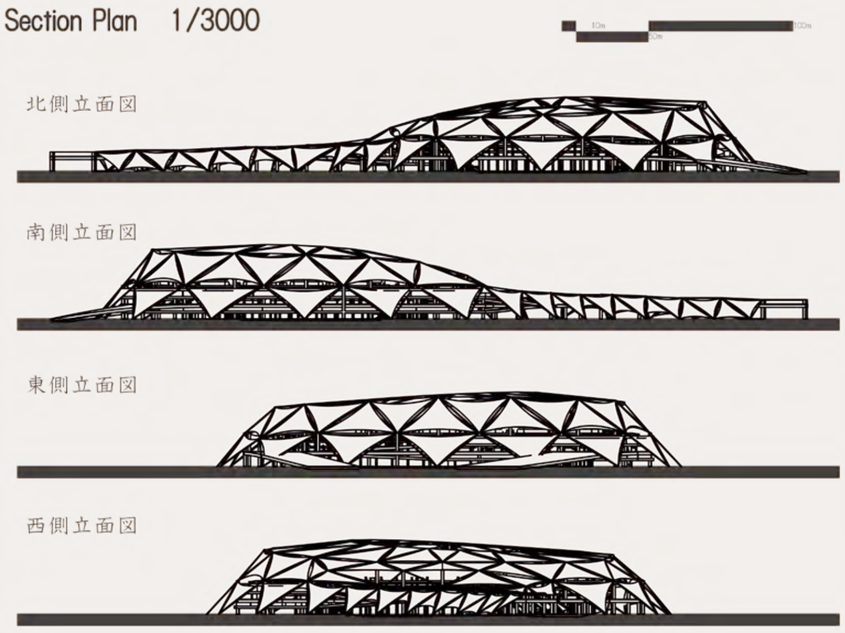
AxonometricDrawing



Site Plan　1/10000



Floor Plan　1/3000



Section Plan　1/3000